地域新聞みあき 第2号

地域新聞みあき製作委員会
2017年2月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com

羽ばたく一年に

（文責）稲垣　信雄

明けましておめでとうございます。昨年は、クリーン運動、道づくり、北山崎夏祭り大会、三秋大池防災ワークショップ等、地域活動に積極的なご協力を頂きありがとうございました。

今年は、三秋地区全住民が、安全・安心・静かで暮らしやすいと実感できるよう全力で取り組んで参りたいと考えております。どうぞ本年も宜しくお願い致します。

三秋大池、大地震・豪雨により決壊のおそれ！地域住民の避難訓練始まる

（文責）稲垣・西川・折井

◇大池の現状は？

現在の三秋大池の土手（正面）

伊予市八景の一つ三秋大池は、江戸時代に築造されて以来、三百年以上経過している。県の調査によると、池の土手の耐久性は、弱体化していることが確認され、大きなショック（大地震・豪雨）を受けると、決壊する可能性が高いと診断された。

◇土手決壊対策の現状

県の調査結果を受け、現在、関係する各集落と協議を重ね、工事推進の方向にある。また、池の水深を下げる等の被害軽減策を取っているが、決壊危機は解消されていないのが現状である。

土手の上から見る三秋地区

◇犠牲者ゼロ！住民の取り組み

大池が決壊した時の避難について考える、防災ワークショップに三秋代表者36名が参加した。避難場所や経路を決め、「避難行動計画」を作った。更に、実際に現地で、専門家の指導の下、避難場所や経路等を確認。濁流が襲ってくると想定される高さを確認しながら、どこまで逃げる必要があるかを話し合った。

ワークショップの成果を発表

ワークショップの様子

◇三秋地区全員参加 避難訓練を実施

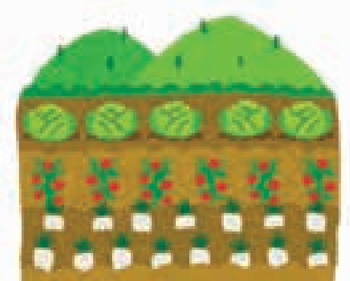
先の防災ワークショップを受けて、避難場所（上組は集荷場・下組は西願寺・端組は端集会所）を指定し、いかに避難出来たか確認する、三秋地区全員参加の避難訓練が昨年11月13日、早朝７時より実施された。約１５０名の住民が参加。訓練とは言え、身が引き締まる思いでそれぞれの避難場所へと向かっていた。

現地にて避難経路確認

集荷場での避難訓練（上組）

◇三秋大池の未来と住民の思い

大池土手の改修工事費は、約４億と推定される。調査・工事許可等の手続きで４年、本工事に５年と長期に渡る大工事である。しかし、地元住民は、従来の静かで安全安心な三秋地区に戻るべく、早い完成を願っている。



西願寺での避難訓練（下組）

三秋大池にご来訪を

（文責）三秋そよ風会　会長　稲多勝利

稲多　会長

三秋そよ風会（三秋老人会）では、年間を通じて色々な活動をしています。その中で、３月に実施している三秋大池の桜の木の下刈りについてお話しします。昔、三秋大池はお花見の名所として、多くの人が桜の季節、特に４月４日に訪れていました。そのお花見の名所を守り伝えていこうと、年に１回、桜の木の下刈りをしています。前回の新聞にも出ていましたが、秋の七草の一つフジバカマに集まる旅するチョウ「アサギマダラ」も有名です。機会があれば、是非ご来訪頂き、三秋大池の四季を感じ取って下さい。

元気をもらった敬老会

（文責）吉岡　満

昨年、初めて敬老会に参加させてもらった。小学生の作文発表から、おじいさん、おばあさんが、孫や家族のために活躍されていることを知らされた。また、偉い人の言葉にも大変感銘を受けた。

①食事は野菜から食べよう
②毎日20～30分運動をしよう
③社会への参加もしよう

短い言葉であるが、一つ一つを確実に実践すれば、素晴らしい人生が送れると実感した。野菜栽培をしている自分も食べることはもちろん、野菜を大量に生産し、多くの方々に、たくさん食べて頂きたい。あと何年、いや足・腰の動く限り、野菜作りを続けたい。

昨年の敬老会（小学校体育館にて）

三秋のすきなところ

稲多　慶次

ぼくの三秋のすきなところは、自然が豊かなところです。

野苺ができていて友達と食べたり、川に大きなコイ、魚、カニがいてつってみたり、春には、家の木に半分に切ったみかんをさしたらいろんな鳥が来たりします。

特に、つりに関しては、いいと思います。大池では、ブルギルがとれたり、川では、ハヤやカニがつれます。いとこと川でつりもして、カニが三匹もつれたときは、もううれしかったです。

学校までは遠いと思うけど、自然はすごく豊かだと思うので百パーセント楽しいです。

稲多早苗さんの双子の子供たちより作文の投稿をいただきました。
ありがとうございました。
テーマは「三秋のすきなところ」

三秋のすきなところ

稲多　教経

ぼくは、自然豊かで動物や植物がたくさんいることです。

コイ、アサギマダラ、野苺、カモ、イノシシ、紅葉、イチョウ、サル、ウサギ、タヌキなど都会にはいない物がたくさんあります。

季節によって、鳥がいます。春にメジロが家に来てみかんを食べたり、年中ヒヨドリ、スズメが来ます。ときどきハトも来ます。遊んでいたり、下校のとき、川にカワセミやかももいます。

いなかで、なにかしらと不便ではありますが、自然が豊かで雪が積もったり、山でしか味わえないことがあります。

編集後記

今回の第２号は、三秋の防災を特集記事としました。これは稲垣区長が特に力を入れている政策の一つであり、行政機関も様々な形で動いています。今回の避難訓練に参加出来なかった方も今回の特集記事を機に、防災意識を高め、大池の防災だけに限らず、地震や豪雨等のその他の防災について、身近な人と話し合ってみるきっかけになって貰えればと思います。（原田）

おしらせ

みなさんからの投稿・情報・写真等お待ちしております。メールアドレス
info.miaki@gmail.com
もしくは、お近くの当新聞編集委員
三秋地区の区長・総代・お近くの各組長さんまでご連絡下さい。
宜しくお願いいたします。

私の絶景

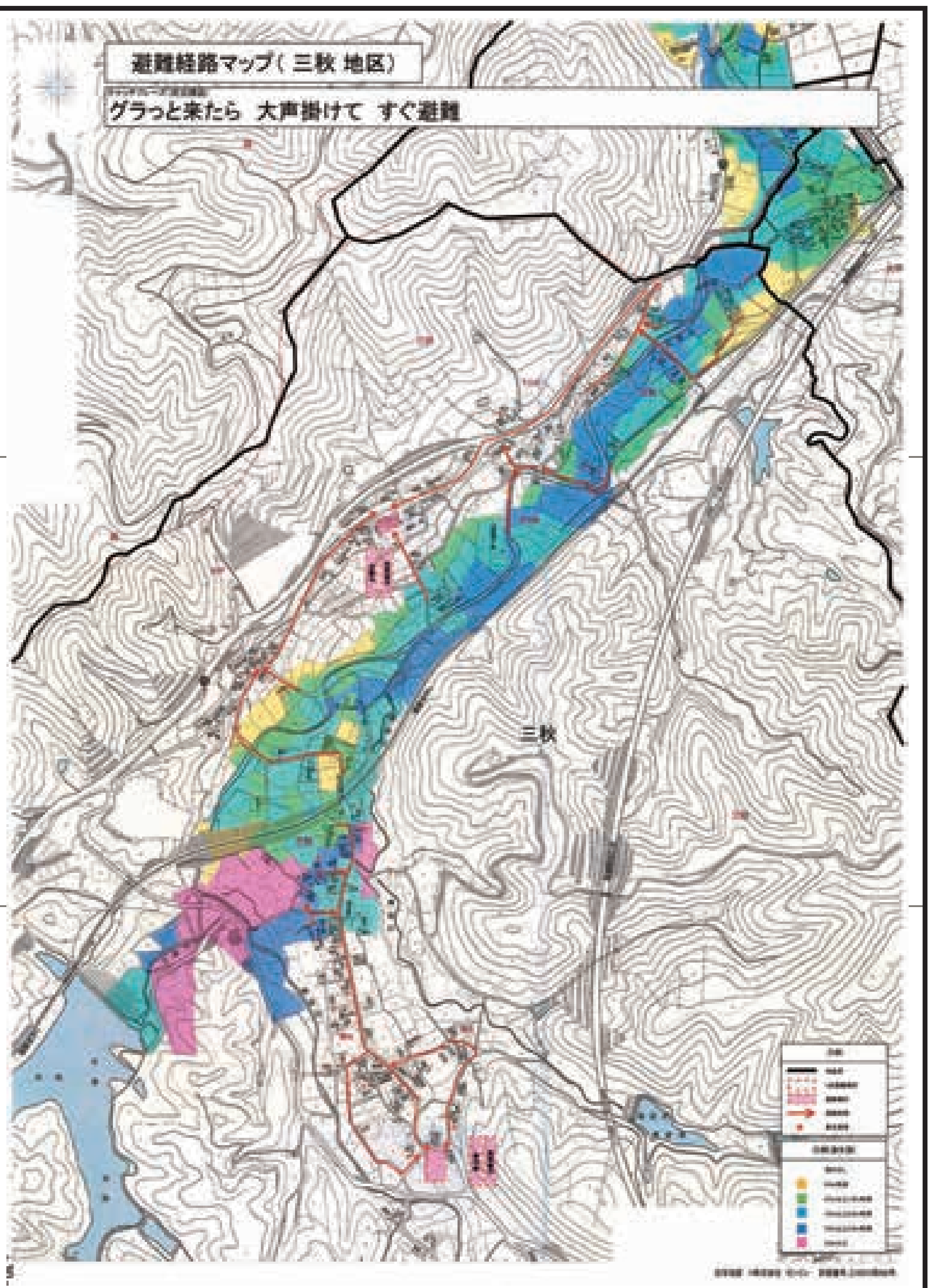
三秋大池付近を走る伊予灘ものがたり
（撮影）稲多　早苗

ムサシ(634m)の頂を目指す

（文責） 原田　浩明

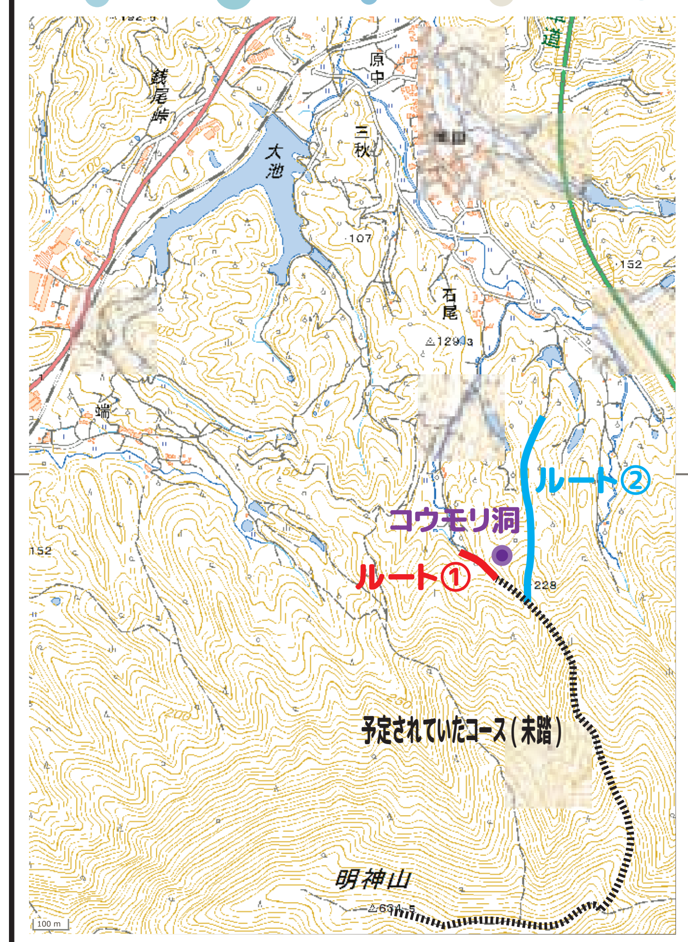
心地よい風が吹く秋晴れの昨年11月23日、今回の企画に賛同頂いた有志を含む計11名による明神山登山が行われた。そもそもこの登山、私（筆者）の祖父の代の頃は、山頂付近にある三秋が所有している杉林の下刈りのため、地区の代表者達によって定期的に行われていたそうだが、諸般の事情により途絶えることとなった。そして現在、地域新聞みあきを発刊したことを機に、その先人達が登ってきた「明神山」に我々も登ってみようという機運が高まり、今回の企画となったのである。

さて、今回の登山ルートであるが、数年前に市教育委員会主催で行われた登山会で通ったルート（地図上①のルート）と、過去の先人達が登っていたとされるルート（地図上②のルート）の2つのルートがあったが、比較的新しい①のルートで登ることにした。朝8時に登山口を出発。約1時間程登ったところで、問題が発生する。我々の背丈にもなるシダの群生が行く手を阻み、中々前に進めないのである。仮にこのまま進んで山頂まで行ったとしても、時間的に下山するのは困難と判断、来た道を戻り②のルートに変更することにした。②ルートを登ること数時間、やはり①コースと同様にシダの藪で前方は見えず、このまま藪漕ぎで進んでも日が暮れて危険なので、230メートル程登ったところで、断腸の思いであったが、今回の登頂を断念することにし、いつかまた、再チャレンジすることを誓い、下山した。



避難経路点検マップ(三秋地区)

藪漕ぎをしながら進む一行



今回の登山コース(国土地理院HPより)

明神山中腹より望む景色

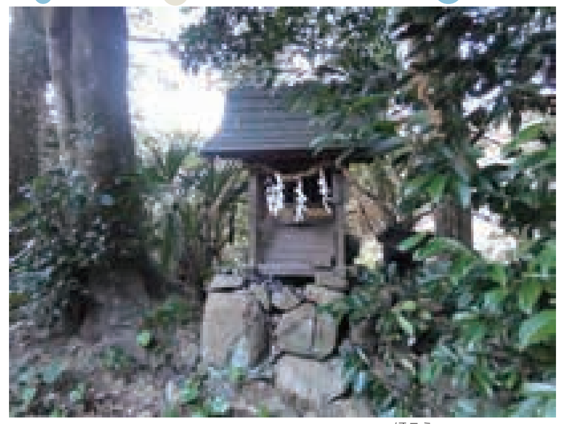
◇伊予灘を見渡す絶景に感動！

②ルートを登っている途中、少し開けたところに出た。そこから望む景色は、大変素晴らしく、我々一行に感動と癒し与えてくれた。

◇石鎚神社の祠跡か？

祠跡と思わる石群

②ルートの途中に人工的に積んだと思われる石群を発見。今回の登山に参加された原田英俊さんによると、かつてここには、石鎚神社から分社された祠があり、参拝者の登山もあったらしい。しかし、険しい道で登るの大変になってきた為、ふもとに移設。それが現在、水之大明神社の境内の奥にある小さな祠ではないかと言われている。


移設された石鎚神社の祠?
(水之大明神社 境内にて)

◇藤岡弘探検隊気分？コウモリ洞を探せ！

登山ルートについて調べていた際、コウモリが生息する洞窟があるとの情報を得ていたので、せめて、登頂断念の代わりに洞窟だけでも見ておこうと、②ルートより下山後、再度①ルートへ行き洞窟があると思われるところを手分けして捜索した。が、なかなか発見できない。そんな諦めムードになりつつあったその時、「あったぞー！」登山参加者の吉岡満さんの威勢のいい声が響き渡る。一同喜びを抑えながら、その声がする所へ向かう。これが探し求めていた洞窟か！恐る恐る中へと足を踏み入れる。ヘッドライトであたりを照らしながら辺りを見回すが、お目当てのコウモリを見つけることはできなかった。後で調べたところ、この洞窟は、砥部焼の開祖「杉野丈助」が江戸中期1777年に原料の石を見つけて掘り出した跡であることが分かった。そういう意味でこの洞窟は大変貴重と言えよう。

◇期間限定！黄金のじゅうたんロード

コウモリ洞の入口にて

コウモリ洞を捜索している途中に、その黄金のじゅうたんは突如として現れた。大きな銀杏の木々から落ちた黄色の葉でその山道は覆われていたのである。まさに、この時期にしか見られないそれはそれは美しい光景であった。

水之明神社と三秋地区

（文責） 松田　文一

もと明神山の山頂に鎮座し、祈雨の神として伊予・浮穴・喜多三町の祈願所となっていた。また、1873年頃、稲荷神社の境外末社として、村社となった。元々雨の少ないこの地域では、夏場において降雨を願う祈願が山頂の神社において度々行われていたが、道のりが長く険しかったこともあり、1910年現在地に本殿を建直し奉還したのが今の村社である。現在も年数回の祭礼が執り行われているが、中でも7月18日の土用干祭には神宝を奉じて氏子一同が虫祓いの神業であるお籠が行われ、その後境内において各自重箱に詰めた料理を持ち寄り、しばしの酒宴にふけっていたのを思い出すものである。しかしながら、地域一同による酒宴については、もうすでに過去の行事となり、我々の記憶からも忘れ去られようとしている。

ところで、平成28年秋祭りに間に合うように、岡田組・北組において、幟旗を新調した。昭和47年以来、実に44年ぶりのことである。昨年の秋祭りは新しい幟が祭りの盛り上がりに花を添えてくれたのではなかろうか。地域コミュニティの衰退が叫ばれて久しいが、各行事が地域住民の支えとなって、三秋地区から途絶えることのないよう、次の世代へと引き継がれていくよう切に願うものである。

神社境内にて氏子らによる しめ縄作り

一面に広がる銀杏

北組一同にて新規幟(のぼり)を立てる(四つ角にて)

三秋他各地区の氏子らによる大人神輿

三秋地区の子供達による子供神輿

伝えていきたい伝統行事　亥の子

（文責） 亥の子世話人

♪お亥の子さんという人は・・・

久しぶりに折戸集落に亥の子の声が響きました。しばらく子供達がいなくなり、途絶えていましたが、新しい住民（子供達）が増えて復活することができ、懐かしく微笑ましく思いました。感動！！感動！！

折戸の亥の子

亥の子のわら棒作り(折戸)

♪亥の子の唄

お亥の子さんという人は
一から　ふんまいて
二で　にっこり笑ろて
三で　酒造って
四で　世の中良いように
五つ　いつものごとくなり
六つ　無病息災に
七つ　何事ないように
八つ　屋敷を広げ建て
九つ　小倉を建て並べ
十で　とうとう収まった
ここの屋敷は良い屋敷
繁盛せい繁盛せい

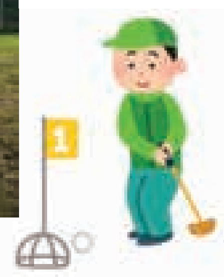
※地域によって歌詞が異なる場合がありますのであしからず

下三秋の亥の子

原中の亥の子

コミュニティー広場の活用

（文責） 西川　清

前回の創刊号で皆さんのご意見を募集しておりましたコミュニティー広場の活用方法ですが、11月27日の評議委員会でグラウンドゴルフ場としての利用が良いのではというご意見が出て、ほぼその方向で決まりました。道具（クラブは老人会、ゴールは3セットを集会所にあり）は今あるものをできるだけ活用し、足りないものは買います。広場の整地については、砂などの原材料は市に補助を申請。整地作業は有志で行います。初回のゲームについては、三秋の各組から2名ずつ参加して頂き、対抗戦になれば面白いかと思います。実は私（筆者）、10月10日体育の日のグラウンドゴルフ大会に参加させて頂きました。初めてのプレーで散々な結果でしたが、初心者でも十分楽しめました。お年寄りから若い人まで楽しめるスポーツですので、広場の整備が完了した際には、是非プレーしてみてはいかがでしょうか。

今現在のコミュニティー広場